

大学重点研究プロジェクト

「佐久ケア・モデルの確立に係る研究」

佐久大学人間福祉学部 小山秀夫

1. 目的

保健医療の先進地である佐久市を中心とする一定の「ケア・モデル」を一層明確に確立するための体系的な情報の収集と整理、独自の実態調査、総合的科学的理論構築の可能性を探究することを目的とし、最終ゴールを「仮称：佐久学の確立」に設定するものである。

2. 研究時期

平成4年度4月から平成7年3月末までの3年間

3. 方法論

①研究の進め方に関する検討会の開催（必要に応じて開催）

研究プロジェクトのパーパスの確認、これまでの情報集積状況の確認、具体的研究スケジュールの立案と進捗管理。

②各種インタビュー調査の実施

佐久市内の保健医療福祉関係者及び行政関係者に関する佐久大学役職員の個別情報の体系化を進めながら、大学内での不足情報の確認とインタビュー情報の追加収集を行うことを目的としたインタビュー調査の実施。

③学内外研究会およびシンポジウムの開催

既存資料の収集、学内研究者の「佐久ケア・モデル」への取り組み状況の把握を続けながら、具体的研究目的、予想される結果について研究を進め、総合的な検討を加える場としての学内研究会を開催するとともに、学内外の有識者を交えての「佐久ケア・モデルの関するシンポジウム」を開催する。

④調査研究事業の進捗と成果の報告

調査研究事業の進捗等に関しては大学ホームページなどで公表するとともに、成果については一定期間ごとの報告書をまとめるものとする。

4. 進捗状況

平成4年度中の進捗状況はつぎの通りである。

学内ワーキンググループ会合3回開催

地域の医療福祉関係者及び行政職交えての懇談会の開催4回開催

学内者への呼びかけによる調査研究フレームワークの集団会の開催

以上を開催した。なお、平成5年度も継続中である。

5. 研究フレームワークの決定

当面、広範な調査研究対象を、佐久市の自然的歴史的社会的探求、佐久地域の農村衛生活活動の探求、佐久市の行政活動の探究の3分類とし、それぞれのフレームワークを検討し

た。

第1に、2005（平成17）年4月1日、旧佐久市と旧望月町、旧浅科村、旧白田町が合併し現在の佐久市を構成しているが、研究対象を現在の佐久市を中心に対象とし、自然的歴史的社会的なこの地域を浅間山麓の美しい高原のまちとして、明治維新前後の状況から1945年までの歴史的事項を確認したうえで、戦後の農村改革と都市化への経緯と発展を探求する。例えば、藩主であった大給恒（おぎゅうゆずる）は、1864（元治元）年「新陣屋五稜郭建設」に着手したが、1877（明治10）年赤十字社の前身博愛社を佐野常民らと創設し副社長となった。現在、佐久市望月にある川西日赤病院は1948（昭和23）年4月に日赤長野支部に移管されているが、なぜ、この地の小規模病院を日本赤十字社が引き受けることになったについての資料はすでに散在している。これと同じように佐久市からみた佐久総合病院の発展という観点からの資料も慎重に保管されているわけではない。

第2に、わが国は、国連の推計によれば2050年には100歳以上人口が100万人を超える長寿大国となることは知られているが、戦後飛躍的に平均寿命が伸長し、乳児死亡率が激減した要因を正確に解明できているわけではない。ちなみに1947（昭和22）年の乳児死亡率は出生児数千対76.7であったが、1980（昭和55年）には7.5にまで低下した。その結果併給寿命は男50.06年、女53.96年から、男73.35年、女78.76年となるという、国際的にみれば驚異的变化を記録した。その要因は第一義的にみれば栄養状態の改善であろうことは明らかだが、それは同時期の経済発展による所得の向上、公衆衛生、公衆栄養、農村開発、生活環境（上下水道など）、教育（学校給食など）の他部門における施策の成果である。このことに関して主に佐久地域の農村衛生活活動に焦点を当てて、探求する。

第3に、2000（平成12）年の介護保険法施行施行以降の佐久市行政の活動、近年では「暮らしやすさを」高め、「回的健康都市佐久」の実現に向けた取り組みは、高く補油化できるものであるとともに、地域包括ケアシステムを中心とした佐久市の行政活動は、詳細に探究する。

6. 今後の活動計画

令和5年度は、前年度の方針を継続し、各種インタビュー調査の実施による探求を進めるが、つぎのような個別事項についても着手している。

- ①かつて全国7カ所のモデル老人保健施設であった佐久総合病院老人保健施設の資料の散逸防止と資料整理。
- ②佐久総合病院職員の共同運動、社会福祉学のタームでいえば「ボランティアアクション」としても農村衛生活活動の証言収集。
- ③佐久市内のボランティア組織の現状と課題、これまでの経緯の整理。
- ④佐久市の行政計画とこれまでの資料整理とこれからの方向性の確認
- ⑤佐久大学役職員の個別情報の体系化を進めながらのシンポジウムの開催のための準備